「大きな利得」　　2019 年 04 月 09 日

テモテへの手紙　一　6 章 2 節 c～10 節　これらのことを教え、勧めなさい。異なる教えを説き、わたしたちの主イエス・キリストの健全な言葉にも、信心に基づく教えにも従わない者がいれば、その者は高慢で、何も分からず、議論や口論に病みつきになっています。そこから、ねたみ、争い、中傷、邪推、絶え間ない言い争いが生じるのです。これらは、精神が腐り、真理に背を向け、信心を利得の道と考える者の間で起こるものです。もっとも、信心は、満ち足りることを知る者には、大きな利得の道です。なぜならば、わたしたちは、何も持たずに世に生まれ、世を去るときは何も持って行くことができないからです。食べる物と着る物があれば、わたしたちはそれで満足すべきです。金持ちになろうとする者は、誘惑、罠、無分別で有害なさまざまの欲望に陥ります。その欲望が、人を滅亡と破滅に陥れます。金銭の欲は、すべての悪の根です。金銭を追い求めるうちに信仰から迷い出て、さまざまのひどい苦しみで突き刺された者もいます。

「著者」は、牧会上の諸注意を縷々述べてきた。テモテに対し「これらのことを教え、勧めなさい」と言う。異なる教えを説き、主イエス・キリストの福音の健全な言葉にも、信心に基づく教えにも従わない者たちは高慢で、何も分からず、議論や口論が癖になっている。そこからは、互いを否定し合い、妬み、争い、中傷、邪推、絶え間のない争いが生じるだけである。彼らは精神が腐り、真理に背を向け、信心を利得の道と考えている。異なる教えを広め、信者を獲得することによって、自らの利益を求める者たちがいると警告している。宗教は人間の尊厳を守るということに本来の意味があるはずであるが、利得、金儲けの種にしている者がいる訳である。「著者」は、信心は確かに利得の道であるが、その利得は心に満ち足りることを知る利得であると言う。キリスト教信仰は、この世的な損得において、御利益を求める宗教ではない。むしろ、キリストを信じることは愛の犠牲を負うことであるから、具体的には損をする生き方をすることである。しかし、キリストを信じる者は神に義とされたことを知り､神と共に生きることによって平安と勇気に与り、真に生きる道を見出していく。これは、目に見える御利益ではないが、何にも代え難い御利益ではないか。「著者」は、満ち足りることを知ることが「大きな利得」と言っている。この視点から、金銭に関することについて述べている。人は何も持たずに生まれ、何も持たずに世を去る。ヨブが、サタンから試練を受け、全財産と 10 人の子どもを失った時、「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ（ヨブ記 1：21）」と叫んだ通りである。だから、食べる物と着る物があれば、満足すべきである。金持ちになろうとすると、誘惑、罠、無分別で有害な欲望に陥る。その欲望が人を破滅と破壊に陥れるのである。金銭の欲は、全ての悪の根源となる。金銭を追い求めているうちに、信仰から迷い出て、様々な苦しみで突き刺された者がいるではないか。

主イエスは、「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ(マタイ 6：19－21)」と語っておられる。心は富に向かう。何を富とするかに、その人の人格と品位が表れてくる。